



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

アジアの「夢十夜」

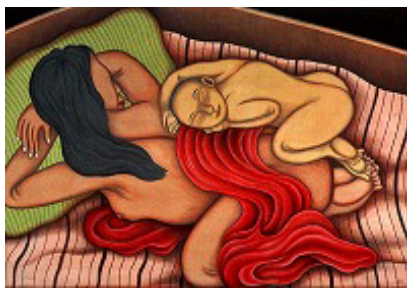
2011年3月24日（木）～ 7月5日（火）
アジアギャラリーB

目を閉じれば、うとうとと夢の世界をただよってしまう季節です。明日を願う夢もあれば、この世とは思えない幻想的な夢の世界、また先の見えない現実世界の不安が呼んでしまう悪夢もあります。

本展では、夢をキーワードに、主に現代のアジア各地で描かれた26点の作品を紹介します。作品のなかの主人公たちの姿や、作品のタイトルから想像をふくらませて、いくつかの物語を追いかけてみましょう。



ドゥルヴァ・ミストリー インド
「《マヤ・メダリオン》習作 1、2」
鉛筆、パステル、チョーク・紙 1986-87



イ・デワ・プトウ・モコ インドネシア
「熟睡する母と子」
アクリル・画布 1992



スー・シンピン（蘇新平）中国
「夢」 リトグラフ・紙 1989

1 空想の旅

夢のなかでは、どんな旅も空想の力で実現してしまいます。作家たちは、いったいどこへ空想の旅に出たのでしょうか。台湾のウ・ティエンチャンは、レトロな写真を使った作品で、過ぎ去った古き良き昔へ、幸福だったあの頃へと旅をします。中国のハア・ユンチャンは、実際には自分の身体を束縛したうえで、しかし精神は福岡から富士山までの想像の旅をするパフォーマンスを行っています。また、チー・パンは、現実世界にデジタル写真加工で、非・超現実的なものを描き込み、別の新たな世界へと飛ぼうとします。

ウ・ティエンチャン（呉天章）
「春宵夢Ⅳ」
油彩、オブジェ・画布、電飾、音ほか

台湾
1997



ハア・ユンチャン（何雲昌）中国
「臥遊—福岡から富士山まで」
デジタルCプリント 2009



チー・パン（遲鵬）中国「太陽」Cプリント 2004

2 シュールな世界

私たちが眠りのなかでみる夢は、どこかつじつまがあわなかったり、ふつうではありえないもの同士が不思議なつながりを持っていることがあります。このコーナーでは、そうした夢の中の、現実を超えた、シュールリアル（超現実的）な世界を紹介します。スー・シンピンは、内モンゴルの広大な草原と無表情な人間を対峙（たいじ）させることで、人間の精神を象徴的に描き出します。色を抑えた淡いモノクロームの表現が、より一層現実を超えた世界へと見る者をいざないます。フィリピンのドン・サルバイバは、「バクを飼いならす」というタイトルにあるように、想像上の生物、バクが食べたであろうさまざまな夢をシンプルなドローイングで表します。



ドン・サルバイバ「バクを飼いならす」
ボールペン・紙 2008

山中現 「夢」 木版・紙	日本	N.N.リムゾン 「星降るドーム」 木炭、色鉛筆、クレヨン、アクリル、おがくず・紙 「光」 木炭、アクリル、おがくず・紙	インド
	1989		1997
スー・シンピン（蘇新平） 「横たわる男と遠ざかる馬」 「静寂な町 その一」 リトグラフ・紙	中国	ホセ・レガスピ 「火事」 油彩・画布	フィリピン
	1989		1999

3 幻想の風景

自然は、夢と結びついて、さまざまな幻想の風景を生みだします。自然のなかに身を置き、空を眺め、木々のざわめきを聞かなかで、現実にはない幻想の風景がみえてきます。ミャンマーのワー・ヌは、夢見ごちな少女が、現実と幻想の間をゆらゆらと行き来するさまを、林の木漏れ日やちいさな蟻が壁をはう姿を通して、優しく描き出します。ベトナムのディン・ティン・タン・プーンの描く、木々の葉と人の身体とが溶け合ったような少女の姿からは、どこかファンタジーやノスタルジックな気持ちをおこさせる柔らかな幻想世界が広がります。



バダムジャヴィン・チョグソム モンゴル
「夢」 油彩・画布 1985

ルチア・ハルティニ 「青い月」 油彩・画布	インドネシア	ディン・ティン・タン・プーン 「愛は自然に宿る」 「愛-自由」 墨、水彩・紙	ベトナム
	1988		2005
イヴァン・サギト 「現実と反映」 油彩・画布	インドネシア	ツェレンナドミディン・ツェグミド 「夢の時」 油彩・画布	モンゴル
	1988		1994
カジ・ギヤスディン 「夜の物語」 油彩・画布	バングラデシュ	ワー・ヌ 「春のティータイム」 ビデオ（12分）	ミャンマー
	1996		2003-04

4 そして、現実の悪夢

夢といっても、あいまいなぼんやりとしたものだけではなく、現実社会があまりに生き難く、過酷であり、人々にとって現実こそが悪夢となることもあります。アジアでは、植民地の歴史や、独立後も宗教や民族の問題などを抱えてきました。フィリピンのロベルト・フェレオは、フィリピンに侵入してきたいくつもの外国を、自分たちの安眠を脅かす悪夢として象徴的に描きます。マレーシアのタン・チンクアンは、人間の欲望や不安がうずまく 90 年代のマレーシア社会を悪夢とし、またバングラデシュのナズリー・ライラ・モンスールは、夢のように美しいルイス・カーンの建築の中で起きる悪夢のような現実の出来事を描いています。

ナズリー・ライラ・モンスール 「ルイス・カーンの夢：ラプンツェル」 アクリル・画布	バングラデシュ
	2002
アブドゥル 「国会議事堂」 油性ペイント・ブリキ	バングラデシュ
	1994
ロベルト・フェレオ 「眠っているピンタド」 アクリル、レースペーパー・木	フィリピン
	1982
タン・チンクアン（陳振権） 「90年代の悪夢」 アクリル・板、厚板、木、紙、布、亜鉛、鉄	マレーシア
	1990